



# 東海中新聞

NO. 365  
令和3年11月号

本校は教育委員会からの委嘱を受け、来年10月に研究発表会を開催します。11月18日には教育委員会の合同訪問があり、2年1組が特設授業を公開しました。

## 生徒心得を 生徒の手で 校長 今枝武司

うな衝撃を受けました。東海中の生徒なら大丈夫と判断しました。昨年度からタイトの着用、防寒着の着用時期の撤廃（寒くなったなら生徒の判断で着用する）なども行い、今年も教室でカーディガンやひざ掛けを多くの生徒が活用しています。

「生徒心得」いわゆる校則は、本校では生徒手帳に記載され、服装・髪型・持ち物に至るまで細かく記載されています。これは生徒たちが安心して安全な学校生活を送るための基準となるものとして制定されています。しかし、この「生徒心得」が生徒のためになっているのか、生徒の気持ちに寄り添ったものになっているのか、今日的なものになっているかを考えなければならぬと思うようになりました。それは、昨年度の生活委員会との話し合いが大きなきっかけでした。

昨年度、コロナ禍で教室では冬でも換気をしなければならなくなりまし。震えながら授業を受ける状況に、生活委員から「教室でのカーディガンやひざ掛けの着用を認めてほしい」という提案がありました。生徒は「防寒着としてではなく、コロナ対策として、あくまでも教室での着用」にこだわりました。生徒は生徒なりにきちんと考え、判断していました。生徒に任せるのは危険と考えていた私は、頭を殴られたよ

今年度は生徒会役員がスマイルポスト（意見箱）を設置したこともあって「生徒心得」に関する意見が寄せられました。生活委員会が中心となって「東中生が幸せな学校生活を送るには必要なきまり・不必要なきまりは何か」と話し合い、現行の「生徒心得」から次のような改定案を生徒総会で提案しました。よく考えていると感じします。

- ① 女子生徒のスラックスの着用（業者に依頼し、試作品完成済み）
  - ② 靴・靴下の色指定の撤廃
  - ③ 髪型の規定の緩和（アシンメトリーやツীবロックは不可などの今までの制限をなくす。ただし、カールやパーマ染色などの加工・整髪料は不可）
- 今後は職員で検討し、早い時期に発表したいと思います。
- 生徒の皆さん、自分で意見を言えば、変えることもできます。自分が動けば、周りを動かすことができます。でも、発信しなければ何も変わりません。現状維持は後退かもしれませぬ。皆さんの発案で「生徒心得」は変わります。

# 修学旅行紀行

## 最高峰の修学旅行

三年一組

私は今回の修学旅行で班別活動の班長になりました。初めて行く場所で班長として班を引っ張ったり、まとめたりできるか正直不安な部分もありました。しかし、班の子が計画を立てる時間から一緒にたくさん考えてくれたおかげで、二日目の班別活動を成功させることができ、さらに仲を深めることもできました。

クラスとしても三日目のクラス別研修で、アスレチックやジップラインで遊び、あまり話したことがなかった子とも話す機会ができました。

修学旅行のテーマの一部でもあった『日本一のチームワーク』で最高の三日間となりました。この修学旅行を通して、

学級・学年そして自分自身も成長できたと思います。

『日本一のチームワーク』をこれからの行事にも生かしていきたいです。



## みんなの力

三年四組

僕はこの修学旅行で班別活動の班長を務めました。僕は過去に実行委員の経験はありますが、班長など多くの人をまとめることはあまりしてこなかったもので、失敗しないかと心配でした。今年の班別活動はコロナウイルスの影響もあり、例年のように東京やデイズニールランドではなく、河口湖周辺での活動でした。活動範囲が広く、バスなどを使うという点で、細かい時間も決めないといけないませんでした。

当日は、自分が迷っていた時に班員みんなが支えてくれたおかげで大きなトラブルもなく、楽しい思い出を作ることができました。僕一人だけではできなかったこともありました。僕一人ですが、みんなと力を合わせる事によって、成功することができたと思えました。この修学旅行で深めた絆を、今後の生活で生かすことができる三年生でいたいです。

## 最高峰の修学旅行

三年二組

今年の修学旅行のテーマは「前進」日本一のチームワークで作る最高



峰の修学旅行」でした。終わって振り返ってみるとテーマ通りの日本



一のチームワークで修学旅行は大成功だったと思います。特に二日目。先生の指示が少ない状態の班別活動では、チームワークを発揮できたと思います。どの班も少なからずトラブルがあっても、意見を出し合ったり、班内で解決したりして、スムーズに進め

ました。これも修学旅行の成功につながったと思います。最初は延期となり、コロナウイルスの影響で実施できるか心配だったけど、対策をしっかりと行うなどしたおかげで実施でき、本当によかったです。この修学旅行での経験や作り上げたチームワークを卒業までの残りの学校生活で生かしていきたいと思えます。

## 一生残る思い出

三年三組

コロナ禍での修学旅行。今年は今までと行き先も異なり、不安な気持ちもある一方で、少しでもみんなが楽しめて思い出に残る修学旅行にし

たいと思い、プロジェクトリーダーになることを決めました。夜企画のチームでは、何度も話し合いを重ね、一日目、二日目共に無事成功させることができました。

また、ただ修学旅行を楽しみだけでなく、たくさんの方の様々な思いを知ることができたと思っていま

す。熱海のホテル金城館では、被災された方や私たちに對するホテルの方の温かさを感じました。クラス別や班別で訪れた場所では、どこも私たちに素敵な思い出を残してほしいという思いが伝わってきました。そして、この修学旅行を企画してくださった先生方や旅行社の方、運転手さんやバスガイドさんなど、本当にたくさんの方の力があってこそ、一生思い出に残る修学旅行になったと思えます。



# 熱海義援金

三年生は十月十一日から二泊三日で修学旅行に行ってきました。宿泊地が熱海であったことから、生徒会が中心となり、「熱海義援金」を募りました。

『熱海市は今年、大規模な土砂災害が襲い、亡くなられた方や行方不明の方もいらっしやいます。さらにコロナ禍ということもあり、苦しい思いをしておられる方がたくさんいます。そこで、熱海市を訪問させていたただく立場として何かできないかと考えました。熱海市義援金として募金活動を行いたいと思います。みなさんの募金が熱海市への感謝と支援につながります。ぜひ、東海中としてのみなさんのご協力をお願いします。生徒会長 』

集まった義援金 六万四千四百九十九円は、生徒会長が熱海市役所を訪れ、担当の方にお渡ししました。宿泊した熱海金城館さんも被災された方の受け入れを行っていました。人の温かさを感じた旅行となりました。



# 仕事人講座

二年生は「仕事人講座」を開催し、六名の働く人をお招きし、実際に働くことに対する考えを深めました。

何事も一生懸命に

二年一組

僕は総合の授業で、鈴木工業の柴崎さんから製造業についてのお話を聞きました。

柴崎さんから学んだことで、心に

残ったことが二つあります。一つ目は、自分のために働くということ。人のために働くと考えないと、失敗したときに人のせいになってしまうからです。ただ、自分のためだと思っただけで、それが実は人のためになっているということも知りました。二つ目は、評価は他人がするものだという事です。自分では頑張ったと思っても、人に評価してもらえない場合もあります。だから僕はこれからの人生、他人に必要とされるためにも、何事にも一生懸命取り組み、挑戦していきたいです。

## 職業講座を通して

二年二組

今回の講座を聞いて、私はコミュニケーション能力と考える力について



学びました。

自分は人を助けるような、人と関わる仕事に興味をもっていたので、今回は「美容師」と「販売」の仕事についてお話を伺いました。中でも、お客さん一人一人が悩んでいることなどに熱心に耳を傾け、それに対してどれが良い答えを導き出せるかが、人と関わる上で大切なことだと学び、とても難しいことだと思いました。この学んだことを生かして、今後も学校生活で友達に話しかけるなどして、コミュニケーション能力、考える力を身につけていきたいです。

# 文化祭

今年度の文化祭を十一月二日、三日の両日で開催しました。文化部の発表や合唱コンクール・オンステター

グランプリなどを行いました。

コロナ禍の文化祭ですので、

マスクをしたまま合唱したり、参観学年を二学年に制限したりして行いました。



## 合唱コンクール結果

- 一年生金賞一―五「大切なもの」
- 銀賞一―一「変わらないもの」
- 二年生金賞二―二「君と見た海」
- 銀賞二―四「時の旅人」
- 三年生金賞三―二「虹」
- 銀賞三―三「友へ旅立ちの時」

大切なもの

一年五組

私が合唱コンクールを通して学んだことは、一つのをみんなで作りに上げることの大切さです。合唱は一人ではできないので、金賞が取れたのは、みんなが気持ち一つにして歌えたからだだと思います。

はじめはみんなの気持ちがまとまらず、練習もあまりうまく進みませんでした。あきらめかけそうなこともありました。

しかし、あきらめることなく、気持ち

ちを一つに日々の練習を行ってきたからこそ、本番、最高の「大切なもの」を作り上げることができたと思います。

一つのをみんなで作り上げることは大変なことですが、大切なことだということを学ぶことができました。

大きな目標

二年二組

僕たちは合唱コンクールで金賞を獲得することができました。金賞と発表された時、大きな声で喜ぶ人もいれば、席を立ちあがる人やハイタッチをする人もいて、僕はクラスのみんなで金賞を取るという大きな目標に向かって努力した結果だなと思えました。



初めての合唱コンクールで少し不安だったけど、合唱の練習をしている姿は、一人一人が主体的に行動していて、活気に満ち溢れていました。だから、とても楽しかったです。来年は最高学年にふさわしい合唱ができるようがんばります。

四十色の虹

三年二組

コロナ禍でマスクをして、距離をとっての練習というのもあり、クラスで合唱する難しさが一年生の時よりもあったと思います。僕は指揮者という立場が二回目で、一年生の時の経験から、練習終わりにどこがいけなかったかなどのアドバイスを先生に聞きに行ったり、この状況の中で、どうしたら皆の声が会場に響かせることができるかなど、とても考えたりしました。

ただ、一人で抱え込むのではなく、周りを見れば常に仲間がいてくれて、最初はバラバラだった気持ちも練習を重ねるごとに、いつの日か一つの目標に対して一直線に向かっていきました。本番では、全員の気持ちが団結して金賞を手にし、四十色の虹をかけることができました。



表彰記録

愛知県吹奏楽コンクール西三河北地区大会 (B編成の部) 吹奏楽部

銀賞

アーチェリー長月杯

三十m / 三十m部門

優勝

第五十一回愛知県野生生物

保護実績発表大会

愛知県自然観察指導員

連絡協議会賞

岡崎市教育委員会部活動奨励賞

奨励賞

自然科学部

日本管楽合奏コンテスト

予選審査会 (中学A部門)

優秀賞

CBC子ども音楽コンクール

吹奏楽部

優良賞

第五十六回一万人卓球大会

吹奏楽部

優勝

準優勝

西三河中学校新人陸上競技大会

四種競技

優勝

岡崎市小中学校理科作品展

学校代表一年

二年

三年

やまなみ

教育随想

東海中と自然

校務主任 平岩 嘉久

東海中学区は、自然に恵まれ、数多くの動植物が生息している。その為か、開校当初より野鳥観察や生物保護の活動を進めている。

三十年前にカワバタモロコが生息するため池の一つが埋められてしまったことを知り、休耕田を利用してため池をつくったことから保護活動が始まった。

ため池は、浚渫作業を毎年行わないと湿地になってしまう。また、水質を維持する為には、常に沢の水を引き込む必要がある。「モロコの池」と名付けられたこの池を守ることが東海中のプライドとなり、長年にわたる活動の支えとなっている。

また、北山湿地の保全活動に参加し、山綱川の水质調査にも取り組むことで、多面的に学区の自然保護を進め、生物多様性の維持とESDの両立を図っている。これらの活動によって、学区の自然に関心や誇りを持ってもらえることを願っている。